

## 別紙様式3

## 平成29年度 第1回 不破高等学校活性化協議会 議事要旨

日 時	平成29年5月29日(月) 13:30~15:00
場 所	不破高等学校 ガイダンス室
出席者 (敬称略、 50音順)	<p>(委員)</p> <p>神谷 憲一 垂井町立不破中学校長  竹内 治彦 岐阜経済大学教授  中川 敏之 関ヶ原町教育委員会教育長  中川 満也 垂井町長(代理:永澤幸男 副町長)  西川 一明 宮代地区まちづくり協議会長  西脇 康世 関ヶ原町長  丹羽 豊次 不破高等学校同窓会長  林田 力 垂井町立北中学校長  藤墳 守 岐阜県議会議員  三浦 高雄 垂井町商工会事務局長  南園美喜雄 不破高等学校PTA代表  山田 直人 垂井町立宮代小学校長  和田 満 垂井町教育委員会教育長</p> <p>(学校側)</p> <p>岩田 善隆 校長  増田 泰志 教頭  川瀬 英樹 教務主任  臼井 澄人 進路指導部長</p> <p>(県教育委員会)</p> <p>石原 康秀 教育総務課課長補佐  日比 学 教育総務課管理主事</p>
議事概要	<p>1 発達障がい等総合支援モデル事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(不破中学校の現状、取組状況について情報提供)</li> <li>・(宮代小学校の現状、取組状況について情報提供)</li> <li>・先般、発達障がいのNHK番組を視聴した。小・中学校の取組でだんだんとうまく生活できるようになってくるが、扱いは本当に難しい。愛知教育大学で発達障がいに関わる教師向けのDVDを作成しているが、地元の岐阜大学でも、教師向けの指導のノウハウになるものを作成してもらえるとよい。新しい個別支援計画をもった生徒が入学してくるが、専門的見地から、大学からのアドバイスがもらえるとうよい。</li> <li>・垂井町では、「コミュニケーションツールとしての挨拶、早寝・早起き・朝ごはん、読書」の3本柱を合言葉に取り組んでいる。</li> <li>・本事業は、発達障がいの生徒を積極的に受け入れるというものではない。現状、発達障がいの疑いのある生徒、例えばコミュニケーションが苦手、集中が続かないなど、困り感がある生徒を援助していくための効果的な方策を考えるものである。</li> </ul>

## 2 特色ある学校づくりについて

- ・ 私立高校の企業努力がすごい。スクールバス、大学との連携、修学補助などもあり、魅力的である。広域通信制の高校も金銭的余裕があれば入学できる現状がある。中学校では安易な進路選択をしないよう進路指導に努めている。
- ・ 不破高校は、朝9時の始業、単位制のアピールなど他校にない特徴がある。中学校からは、目的意識をもって3年間で辞めない生徒を送り出したい。
- ・ 今年度の入学定員の確保は、本協議会を受けて真摯に取り組んだ成果ではないか。不破高校のアピールは生徒自身にアピールをさせるといい。
- ・ 昨年度、不破高校で実施した活性化プログラムに、小・中学校の教員が参加して大変感銘を受けたようだ。今年度も是非実施していただきたい。
- ・ 大学でも高大連携においてアクティブ・ラーニングの視点を踏まえた学習活動などのお手伝いできればと考えている。
- ・ 不破高校の魅力として、高い就職率や定員を満たしての少人数教育なら説得力があるのではないか。そのノウハウを構築すべきで、生徒たちが前向きに発言したり取り組んでいるということなどをうまく外部に発信できるとよい。少人数コミュニケーションも同じ。岐阜経済大学では、昨年度は地域の学習支援を呼び掛けて行った。その高校版を考えても面白いかもしれない。
- ・ 出身大学や出身高校によってその人の働き方や人間性は比例しない。学歴で決めつけてはいけない。いかに社会性をもった生徒を創り上げるかである。卒業して社会を生き抜く力を育てていくことが大切である。
- ・ 今年度、地元の不破中学校から40名が入学したことは大変喜ばしい。地元を盛り上げるためにも不破郡内で就職してくれることを希望している。
- ・ 保護者も学校や地域の努力をしっかりと理解して、子どもと接しないといけないと感じている。
- ・ 本協議会が起爆剤になればと思うが、一過性ではだめである。子どもが学校を卒業するときはしっかりと卒業して就職できることが親の願いの一つでもある。郡内にも魅力ある企業が多いため、不破高校との連携を強めていけるとよい。
- ・ 同じ不破郡である関ヶ原町の生徒がもう少し入学してくれることを希望する。